6　警察の乗り物

Ｑ２９　警察には、どのような種類の車があるのですか。それはどのようなときに使うのですか。

Ａ　主なものとしては、

○　パトカー

パトロールをして犯罪や交通事故をなくし、市民の安全を守ります。

○　移動交番車

地域の人たちがたくさん集まる場所などに車を止めて、みなさんの相談を聞いたり、パトロールをしたり、交番と同じ活動を行います。

○　捜査用車

事件の捜査や犯人を捕まえるために、刑事が使います。

○　輸送車

災害が発生した場合や警備のため、たくさんの警察官を運ぶときに使います。

○　白バイ

交通事故をなくすため、パトロールをしたり、交通違反を取り締まります。

○　投光車

夜間に事件や交通事故が発生した場合、現場を明るく照らし、警察官の活動を助けます。

○　レスキュー車

大きな災害現場などで、災害にあった人の救助活動に使用します。

このほかに『警護車』『鑑識車』『交番用バイク』などもあります。

Ｑ３０　パトカーの始まりはいつですか。

Ａ　パトカーは、昭和２５年（１９５０年）６月に警視庁に初めて３台の無線警ら車が配置されたことが始まりです。

Ｑ３１　パトカーの色は、なぜ白と黒なのですか。

Ａ　パトカーが日本に登場したときは、日本で生産している一般の自動車はほとんどが白色で、パトカーも白色だと見ただけではパトカーと一般の自動車の見分けが難しかったのです。

そこで、パトカーであることが一目で分かるように、白色ボディーの下半分を反対の黒色に塗りました。

これがパトカーを白と黒の２色にした始まりで、昭和３０年（１９５５年）には全国的に白と黒になりました。

Ｑ３２　パトカーの赤いライトは、どのようなときに光っているのですか。

Ａ　パトカーの赤いライトは、赤色灯といい、周りの人や車に警察官がいることを知らせて、事故に注意してもらったり、犯罪を犯そうとしている人をやめさせたりするために、パトロール中に点灯させています。

　また、事件や事故が発生して現場へ急行しているときは、交通事故を防ぐため、サイレンを鳴らしながら赤色灯を光らせて、周りの人や車にパトカーの緊急な走行を知らせています。

Ｑ３３　白バイの始まりはいつですか。

Ａ　最初は、赤色のオートバイで交通取締りをして「赤バイ」と呼ばれていましたが、昭和１１年（１９３６年）に白色に塗りかえられ、現在の「白バイ」が誕生しました。

Ｑ３４　白バイの警察官は、どのような人がなれるのですか。

Ａ　白バイに乗るための特別な訓練を受けた人の中から選ばれます。

Ｑ３５　白バイの警察官は、どのような訓練をするのですか。

Ａ　乗り方や運転方法などの基本の訓練、違反した車を追いかけたり、警察官自身が事故にあわないための訓練を行っています。

Ｑ３６　警察のヘリコプターは、何をするのですか。

Ａ　県警のヘリコプターは、空からのパトロールをしたり、海や川で事故にあった人を捜したり、自動車などで逃げる犯人を追いかけたり、空から交通事故防止のお知らせをするなど、様々な活動をしています（千葉県警察には、３機※のヘリコプターがあります。）。

※　かとり１号、かとり２号、かとり３号

Ｑ３７　警察の船は、何をするのですか。

Ａ　警察の船は、みなさんが安心して海で泳いだり、釣りができるように、海のパトロールをしています。

また、海に落ちた人を助けたり、波に流された人を捜したりしています。

このようにして警察の船は海の安全を守っているのです（千葉県警察には、４隻※の船があります。）。

※　船名：ぼうそう、いぬぼう、はつたか、まき